

太古の海底火山から流れ出た溶岩流 — 枕状溶岩 (まくらじょうようがん) —



神流川沿いのガケ

いまから約 2 億 6 千万年前* (古生代ペルム紀後期)、海底に溶岩が流れ、つきたてのお餅をかさねたような枕状溶岩になりました。

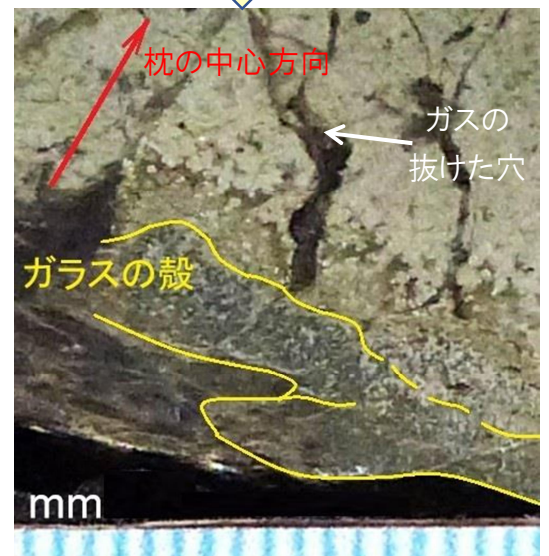
この標本(群馬県神流町)は地下に押しこめられたため、圧力でつぶされてだ円形になりひび割れています。



ひとつの枕の断面

カット面

溶岩は海水で急に冷やされると、外側はガラスの殻ができ、内部は放射状にならんだ針状斜長石がみられます。



下仁田町の青岩公園にかかる新合ノ瀬橋の下には、約 1 億 5 千万年前 (中生代ジュラ紀後期) の枕状溶岩の大きな転石**がみられます。



千葉県鴨川市でみられる枕状溶岩はかたむいてるのに、形はもとのまま残っています。約 5 千万年前*** (新生代古第三紀中期) のもので、群馬県神流町より新しい溶岩流です。

文献: * 辻・渋谷・榊原・堀(2009)日本地質学会第 116 年学術大会講演要旨, O-137.

** 力田(2020)下仁田町自然史館研究報告, 5, フォト 1-2.

*** 高橋・柴田・平田・新井田(2016)地質学雑誌, 122, 375-395.